

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	コミュニティバス運業者をプロポーザルで決定し、土、日曜日の運行、1日の運行本数の増便、定時性の確保、路線の拡張等を盛り込んだ運行計画を実施する。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	市内5ルート週7日運行の利用状況や要望等を把握し、今後の改革・改善が可能か検討。
②①に基づく取り組み結果	バス会社3社による市内4ルート月曜日から金曜日の運行を、平成28年11月1日からバス会社3社による市内5ルートに変更し週7日に増便運行した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	交通不便地域の住民、高齢者を中心とした移動手段弱者	意図(対象をどうするのか)	交通手段の確保
②事務事業の概要	バス会社3社による市内4ルート月曜日から金曜日の運行を平成28年11月1日からバス会社3社による市内5ルートに変更、週7日に増便運行し、運行経費と利用客数に応じ限度額を定め補助を支出。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	週7日運行と高齢者の増加により利用客が増加する見込みで、今後、サービス向上(バス停のベンチや屋根の設置)が望まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	利用客数 90,089人(前年度比21.6%増)						
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠	
	i	コミュニティバス利用者数	74771	74075	90089	人	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	20182	32429	金額(千円)	内容	48140		
国支出金(千円)			49	報償費	0		
県支出金(千円)			513	時刻表印刷	0		
市債その他(千円)	5000	5000	154	時刻表看板	5000		
一般財源(千円)	15182	27429	31713	補助金	43140		

IV 評価・検討

①課題	西線、西線2のワンボックスタイプをバスタイプに変更の要望がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い	
③上記評価の理由	高齢化社会の対応として、地域活動や生涯学習などの参加からコミュニティバスの運行は必要不可欠である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	補助金、時刻表等修正	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金、時刻表等修正	37778	37778	当初	3778	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	32429
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		平成29年度への繰越額(単位:千円)				0	

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	北総鉄道耐震化助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	高架橋柱補強 504本 落橋防止 13.5連	③平成29年度に取組む改革・改善内容	高架橋柱補強 596本 橋脚補強 1基 落橋防止 14連
②①に基づく取組み結果	補助金を適正に支出した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	高架橋柱、橋脚、橋桁	意図(対象をどうするのか)	首都圏直下型地震等による高架構造物の倒壊を防ぐ
②事務事業の概要	首都直下地震等の大規模地震に備えるとともに、北総鉄道を利用する市民及び鉄道施設付近に居住する市民等の安全を確保するため、国、県、沿線6市と協調し事業費を助成するもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	熊本での地震により、公共建築物、高架構造物の耐震性については、市民の関心が高まっていると考えられる。平成29年度には596本の柱補強、1基の橋脚補強、14連の橋の落橋防止工事を行い、補強工事が完了する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	高架橋柱補強504本、落橋防止13.5連の工事に対し、鎌ヶ谷市負担分として23,224千円の補助を行った。				
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠
	i 高架橋柱補強		374	504	本 業務取得
	ii 落橋防止		6.5	13.5	連 業務取得
	iii 橋脚補強		2		基 業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算
事業費(千円)	17282	23224	金額(千円)	内容	27723
	国支出金(千円)		23224	補助金	
	県支出金(千円)				
	市債その他(千円)				
	一般財源(千円)	17282	23224		27723

IV 評価・検討

①課題	平成27年度から29年度の3年で完成させる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	首都圏直下型地震は、30年以内に70%程度の確率で起こると想定されており、対策を進めておく必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	補助金	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	補助金	23321	23321	当初	23321	23224	H27からの繰越	0
				補正			現年分	23224
③達成状況	完了		流用・充当					
④未完了・非着手の理由			平成29年度への繰越額(単位:千円)		0			

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	計画下り線(津田沼方面 延長3,257m)について高架化を実施するとともに、都市交通の事業の進捗を図るため引き続き事業主体である千葉県及び関係機関と調整し必要な財源の確保を図る。
②①に基づく取り組み結果	事業主体である千葉県及び関係機関と調整し、必要な財源の確保を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関と調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線の踏切遮断により交通渋滞が発生していることから、安全性、快適性のため踏切を早く除却するように求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	・初富・新鎌ヶ谷・北初富の高架駅舎工事、計画下り線(津田沼方面)軌道・電気工事を実施した。 ・総事業費を350億円から約495億円に変更及び事業期間を平成29年度から平成36年度とする認可変更を行った。				
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠
	i 用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	% 業務取得
	ii 事業進捗率(事業費ベース)	77	84	72	% 業務取得
iii					
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算
事業費(千円)	382,256	1,006,056	金額(千円)	内容	626,489
国支出金(千円)			1,006,056	県事業への負担	
県支出金(千円)					
市債その他(千円)	329,900	888,800			413,100
一般財源(千円)	52,356	117,256			213,389

IV 評価・検討

①課題	踏切による交通渋滞が多く、市街地が分断されている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民から早期完成が求められているため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	負担金	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
		計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	773,846	1,123,846	当初	773,846	1,006,056
				H27⇒28繰越		
③達成状況	未完了			補正	350,000	現年分
④未完了・非着手の理由	事業主体である県が繰り越したため。	平成29年度への繰越額(単位:千円)		流用・充当		1,006,056
						112,400